

笠木と島木が上に乗る 2 つの柱から構成される門である鳥居は、神社への入り口で、つまり神聖と世俗の境界線です。明治神宮の一の鳥居は明神式で、湾曲した上方の笠木と長い島木が特徴です。

島木には 16 の花びらからなる菊の紋章が 3 つ施されています。これらは明治神宮と皇室とのつながりの印です。というのも、菊の御紋は別名皇室の御紋としても知られており、皇室の紋章だからです。灯笼などの様々なものにも、この紋章が組み込まれているのがわかります。

この鳥居は南参道から本殿へと続く途中にある三つの鳥居のうちの一つ目のものです。鳥居を潜る前後に、尊敬の印としてお辞儀をする人々を見かけることでしょう。